

「阪谷の今を考える座談会」第12回 ご報告

開催日：令和7年9月12日(金) 午後7時～

場 所：阪谷公民館 2階 大広間

参加者：14名

テーマ：阪谷地区の巨岩群



◎阪谷地区には、経ヶ岳から流れ込んだ大小さまざまな岩（巨岩群）がありますが、この巨岩群を活用した地域の活性化を目指し、食育のふるさと阪谷をよくする会では、令和6年度から『阪谷地区巨岩群フィールドマップ』の作成に取り組んでいます。

昨年度は、地区に点在する巨岩のなかでも特徴的なものや、観光資源になりそうなものなど46箇所を調査し、野帳を作成しました。

今回は、令和6年度の事業成果や巨岩群活用による地域活性化の可能性などのお話を聞き、地区の魅力の一つである巨岩群について考えてみましょう。

【お話】

「阪谷の巨岩群の調査、報告書を終えて」

説明：自然工房 野遊学舎 矢村健一 氏

【座談会の目的やルール】

【目 的】

- 阪谷地区の今について、みんなで思っていることや考えていることを自由に話し合っ、そこから地域の問題解決のヒントになるようなことがないか、阪谷の望ましい将来像とはなどについて考えましょう。

（※みなさん、地域のいろいろな団体や会で役などをされているとは思いますが、ここでは、一個人として思いや考えを言っていただければと思います。）

【ルール】

- この会で結論をとることはしません。みなさんの意見は貴重なご意見として主催側で参考にさせていただきます。ですので、他者の意見に同調するのは大いにOKですが、否定することはやめましょう。

【その他】

- この会で出た意見は、貴重な意見として公開（氏名等は公開しません）することにご了承ください。

【座談会の様子】



【座談会（第12回）で出た感想、意見等】

〔2テーブルに分かれて、テーブルごとで下記テーマ等について意見交換〕

主なテーマ：阪谷地区の巨岩群

第1テーブル

【謂われや成り立ち】

- ◆ 巨岩群は、経ヶ岳の噴火によるものだと思われていたが、噴火により河口付近で固まった溶岩石が砕けて、岩屑なだれにより運ばれてきたものであることが、

これまでの研究で分かっている。

- ◆ 経ヶ岳頂上から流れてきたのだとすると、説明がつく。高尾山のところで阪谷方面と大矢谷・平泉寺方面に分かれて流れとすれば、現在の状況に合致する。花房に巨岩が少ないのも、高尾山の陰になって流れてこなかったためといえる。
- ◆ 岩屑なだれは九頭竜川まで達して止まっている。九頭竜川には、いまでのたくさんの巨岩が残っている。
- ◆ 岩石なだれの跡がよくわかるように、花房や柿ヶ嶋、伏石から堂嶋に向けた方角には巨岩がほとんどない。また、花房の方は土が黒く、サトイモなどの作物の質が阪谷の他の地域と違っていたりする。
- ◆ 巨岩は、法面にあるものなどを除いて、巨岩の形で測量し登記されている。巨岩のある土地の所有者は個人になっている。

【巨岩の思い出など】

- ◆ 岩石ではないが、そこそこの岩がそこら中にごろごろしており、田んぼの土地改良の時にかなり取り除いている。
- ◆ 石を半分に切って、アユを焼くなど、炉ばたにしていた。
- ◆ 巨岩ではないが、唐谷川では石英が多く取れた。
- ◆ 「大野のあゆみ」には、花房遺跡から 7,000 年前の土器が見つかったとの記載がある。阪谷地区は昔から住みやすかったということだと思う。

【巨岩の活用など】

- ◆ 巨岩にはそれぞれ特徴があるので、写真などを SNS 等で拡散して周知するとよい。アーティストなどの有名人とコラボし、情報発信してもよい。
- ◆ 「巨岩が岩屑なだれにより運ばれてきた」ことは、巨岩群の調査をした大学の先生から話を聞いた。巨岩の情報を広めるにしても、謝った情報を話すわけにはいけないので、地域住民が巨岩についてよく知ることが大切である。地元のものがよく知らないという現状があるので、巨岩について語る場を設けるとよい。
- ◆ 大野市の観光は六呂師がメインになる。六呂師を起点に巨岩を活用し、歴史と絡めて説明しながら、巨岩を巡るとよい。

【座談会終了後に出された活用のアイデア】

- ・巨岩にちなんだ「岩めし」や「岩スイーツ」などのグルメの創作
- ・「岩ヨガ」や「岩登り（ボルダリング）」などのアクティビティ的な活用
- ・御朱印ツアーや星空と絡めた巨岩ナイトツアーなど
- ・岩の前での音楽フェス「ロック・フェス」や岩にちなんだお祭り「岩祭」
- ・名前のついていない巨岩に名前を付けるイベント

※ SNS 映えを狙った企画を考える

第2テーブル

【謂われや成り立ち】

- ◆ 村の中や道の端など、ふと見て、また、近くで見て、はじめて岩の凄さを感じる。
- ◆ 公民館の横から眺めても5～6個の巨岩が見える。スターランドからも見えるし、スターランドだけの巨岩もある。
- ◆ 岩の凄さがわかるのは大人ではないか。子どもだと理解が難しいのではないか。
- ◆ 地域の人が、巨岩が「魅力」だと認識してくれるのか。

【巨岩の思い出など】

- ◆ 巨岩の向こうにある山の景色が絶景で、「秋」「稲」「桜並木」「ブドウ畑」など魅力がある。スイスのニースの風景にも似ている。
- ◆ 田んぼの耕作にはすごく邪魔だったが、耕作の休憩時に農具をおいたりするなど、身近なものではあった。

【巨岩の活用など】

- ◆ まずは地域の人だけで巨岩を回って紹介する場巨岩を話し合って決める。巨岩は田んぼの真ん中にあることが多く、観光客のマナーなどが心配。きちんと整備してから活用する。巨岩のある土地の所有者の意向も先に聞いておくべき。
- ◆ 巨岩を広めると多くの人が来ることになる。田んぼや畔に立ち入らない、岩に触れることの可否、苔など付着物の採取の可否など、巨岩の活用に関しルール作りが必要になる。
- ◆ 写真コンクールや写生などの企画やそれらを企画する団体の誘致など
- ◆ 巨岩に生えている苔を使った「テラリウム」や「こけ玉づくり」など。巨岩めぐりと合わせて実施しても面白いと思う。スターランドをワークショップの会場とするとよい。
- ◆ 紙芝居や動画など、目で見てもらうコンテンツで紹介する。